

令和5年度

第6次福島町総合計画策定調査
特別委員会会議録

令和5年11月27日

福島町議会

会議録の作成にあたっては、誤りのないよう留意しておりますが、時間の関係上、原稿校正は初校よりできなく、誤字、脱字がありましたら、深くお詫び申し上げます。

まことに恐れ入りますが、ご了承のうえご判読いただきたくお願いいたします。

福島町議会議長 溝 部 幸 基

令和5年度

第6次福島町総合計画策定調査特別委員会

令和5年11月27日（月曜日）第1号

◎調査事件

第6次福島町総合計画策定に関する調査について

◎出席委員（8名）

委員 長	平野 隆雄	副委員 長	藤山 大
委員	杉村 志朗	委員	佐藤 孝男
委員	小鹿 昭義	委員	平沼 昌平
委員	木村 隆	委員	熊野 茂夫

◎欠席委員（0名）

◎職務のため出席した議員

議長 溝部 幸基

◎出席説明員

町 長	鳴海 清春	副町長	小鹿 一彦
総務課長	住吉 英之	企画課長	村田 洋臣
産業課長	福原 貴之	<small>町民課長兼古岡支所長兼会計管理者</small>	深山 肇
福祉課長	小鹿 浩二	<small>認定こども園福島保育所園長</small>	吉能 佳織
建設課長	紙谷 一	<small>福祉センター次長</small>	(石岡 大志)
農業委員会事務局長	(福原 貴之)	<small>企画課企画係長</small>	澤田 元気
教育 長	小野寺 則之	<small>事務局長兼給食センター所長</small>	石岡 大志

◎職務のため議場に参加した議会事務局職員

議会事務局長	鍋谷 浩行	議会事務局議事係長	福井 理央
議会事務局議事係	角谷 里紗		

○**委員長（平野隆雄）**

ご苦労さまです。

ただいまから第6次福島町総合計画策定調査特別委員会を開会いたします。

直ちに会議を開きます。

本調査特別委員会の案件は、令和5年度定例会9月第2回会議において付託されました「第6次福島町総合計画策定に関する調査」でございますので、ご了承願います。

申し出がありますので、町長のあいさつを行います。

鳴海町長。

○**町長（鳴海清春）**

第6次福島町総合計画策定調査特別委員会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、定例会11月会議に引き続き、調査特別委員会へご出席をいただき誠にありがとうございます。

本日の調査事件は、第6次福島町総合計画策定に関する調査となっております。

さて、本日は11月6日に開催された特別委員会の中間調査報告書でご意見をいただきました総合計画事業進捗管理表の調整及び目標とする指標の数値・設定の考え方の見直し並びに第6次福島町総合計画実施計画案などについて、先の意見を踏まえ整理した内容を説明させていただきますので、よろしくお願いをいたします。

なお、年末から年の初めにかけて大変タイトなスケジュールとなっておりますが、2月中旬までに提案し、議決いただきたいと考えてございますので、ご協力くださるようよろしくお願いをいたします。

このあと担当課長から資料に関する説明をさせていただきますので、よろしくご審議くださるようお願いいたします。

以上、簡単ですが、第6次福島町総合計画策定調査特別委員会の開催にあたっての挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いをいたします。

○**委員長（平野隆雄）**

町長のあいさつを終わります。

これより、案件の調査に入りますが、予め調査内容について簡単にご説明し、その後本日の会議の進め方についてお諮りいたします。

本調査につきましては、令和5年度定例会9月第2回会議において付託を受けた案件であり、改選前に実施した調査を含め、これまで3回調査を実施しております。

6月6日開催の委員会では基本構想（案）について、10月4日開催の委員会では基本計画（案）について、11月6日開催の委員会では実施計画（案）について、資料に基づき調査を行っており、意見等については、その都度中間報告書として提出しております。

総合計画は「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成されることから、前回調査において総合計画の内容を一通り調査したことになりますが、このたび、町より、これまでの調査において出された意見等を整理し計画に組み込むなどの調整を行い、最終的な第6次福島町総合計画（案）として作成したものが資料として示されましたので、11月6日に引き続き調査を行うものです。

次に、会議の進め方については、最初に、説明員から資料の説明を受け、「不明な点や疑問な点」についての質疑を行います。質疑が終了した段階で、調査内容について説明員と意見交換を行います。

概ね一定の意見交換が終了した段階で、本件に関する本委員会としての取り扱い等について協議をいたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○**委員長（平野隆雄）**

ご異議なしと認め、ただいまお諮りいたしましたとおり進めてまいります。

それでは、第6次福島町総合計画策定に関する調査についてを議題といたします。

内容の説明を求めます。

村田企画課長。

○企画課長（村田洋臣）

それでは、資料をご説明いたしますので、調査特別委員会資料の3ページをお開き願います。
第6次福島町総合計画の策定について。

1、政策等調書・総合計画事業進行管理表の調整について。

11月6日開催の調査特別委員会の中間報告にある政策等調書・総合計画事業進行管理表について、「活動指標名と各年度の目標及び実績」の記載内容の統一性を確保するため、別紙1及び別冊1のとおり整理しております。

別紙1をご覧ください。

別紙1に修正した部分を対比できるよう一覧表として整理しております。それぞれ、記載内容の統一性を確保するとともに、システムに入力する際、指標の説明と設定の考え方を入れ違えていた事業もございましたので、併せて修正しております。

なお、指標設定の基本的な考え方についての変更はございません。赤字で記入しているところが修正後の内容ということですので、よろしく願いいたします。

それでは、調査特別委員会資料の3ページにお戻りください。

2、目標とする指標の数値・設定の考え方の見直しについて。

調査特別委員会の中間報告書において、再度、検討が必要との意見がありました項目については、次のとおり整理しております。

①岩部クルーズ乗船客数の設定数値についてですが、令和6年度以降の目標値を現状維持の1,800人から2,000人へと見直しをしております。また、インセンティブの面ですが、乗船料金については価格の上限を5千円までとしておりますので、指定管理受託事業者からの申し出に応じて協議してまいります。なお、指定管理受託事業者へ確認したところ、当面の間は現状の料金3千円を維持する方向との回答をいただいているところでございます。

②吉岡温泉の年間利用者数の目標設定についてですが、こちらも令和6年度以降の目標値を6万人から6万5千人へと見直しを図っております。

現在、建設している新たな温泉施設で想定された入館者数に目標値を置き換えております。目標値を達成できるよう、指定管理受託事業者と連携を図りながらサービスの向上及びPR活動に努めてまいります。

次に4ページをお願いいたします。

③コミュニティ活動支援事業数の目標値について。

令和6年度以降の目標値を現状維持の2件から1件増やしまして、3件と見直ししております。

現在、利用している団体は、吉岡3町内会と丸山団地町内会の2団体となっております。町では、毎年、全町内会に活用の周知は行っておりますが、どの町内会も高齢化などの理由で活動が縮小傾向にあります。

来年度以降の事業実施に向け、再度丁寧かつ積極的な周知を行うこととしますが、大幅な増加は見込まれないと予想されるため、1団体の増加目標として目標値を置き換えております。

こちらが別紙1及び別冊1の方に反映しておりますので、後ほどご確認ください。

次に、3の第6次福島町総合計画実施計画（案）について。

中間報告書において、さらに検討を進めるよう、ご意見のありました事項について、次のとおり考え方を整理しております。

①青函トンネル記念館屋外展示物解体撤去事業。

屋外展示物の「くろしお号」については、特に貴重な展示物を認識しておりますので、寄贈いただいた北大水産学部と協議のうえ、今後の展示について協議を進めているところでございます。

また、第2青函トンネル構想の実現に向けた情報発信については、来年度のツアーガイドに構想の内容を説明する場を設けるなど、それぞれの担当課が連携して対応してまいります。なお、個人観光客用にA4用紙1枚程度に第2青函トンネルの必要性をまとめた資料を配布し、来館者への情報発信に努めてまいります。

②教育用コンピュータ等整備事業。

機器の破損・紛失等について、一定のルール（賠償保険等）を整理いたします。

③福島町青少年交流センターゼロカーボン・モビリティ導入事業。

令和6年度策定予定の脱炭素戦略計画（仮称）でございますが、こちらにおいて町全体の事業計画を策定することを考えておりますので、当該事業についても関連性を計画内で位置づけ、実現に向けて関係機関と調整を進めてまいります。

④日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震における津波避難緊急事業。

高台避難所に設置予定の備蓄倉庫については、夜間の避難を想定し、懐中電灯などを備えるとともに、クマ避けスプレーなどをはじめとするクマ対策用品なども備蓄し、有害鳥獣対策についても今後、検討してまいります。

6ページをお願いいたします。

⑤SDGs（全体意見）。

SDGsの理解が進むよう来年発行の広報において、特集記事として掲載を予定しております。

⑥政策等調書・総合計画事業進行管理表について。

政策等調書・総合計画事業管理表については、令和6年度からのスタートに合わせて見直しをすることが出来なかったため、来年度以降、様式の簡略化を含めた見直しを進めてまいりたいと考えております。

4、第6次福島町総合計画基本構想及び基本計画について。

これまでお示しした第6次福島町総合計画基本構想及び基本計画を別冊2のとおり、とりまとめして整理しております。また、町長による巻頭の「まえがき」を追加しております。

こちらは別冊2の方になりますので、後ほどご参照いただければと思います。

5、第6次福島町総合計画実施計画について。

第6次福島町総合計画実施計画（前期実施計画）をとりまとめましたので、別冊3のとおり整理しております。

なお、現在とりまとめた実施計画については、令和5年8月時点の内容となっております。令和6年度当初予算に係る部分などで金額の変更が生じた場合は、令和5年度福島町議会定例会3月会議において、計画変更する予定となっておりますので、ご理解のほどよろしくお願い致します。

こちらも別冊3の方を後ほどご参照いただければと考えております。

7ページの、6の今後のスケジュールについて。

第6次福島町総合計画策定に向け、今後のスケジュールは次のとおりとなっております。

11月30日に総合計画審議会を開催し、基本計画（案）、実施計画（案）の諮問を行い、12月中旬から約1ヶ月間パブリックコメントを実施いたします。パブリックコメントにおける意見等の確認、反映作業を経て、2月上旬に総合計画審議会において答申いただく予定となっております。これらを経まして、2月中旬に定例会2月会議を開催いただき、上程致したいと考えております。

以上で、資料の説明を終わります。

ご審議のほどよろしくお願い致します。

○委員長（平野隆雄）

暫時休憩いたします。

（休憩 11時57分）

（再開 12時49分）

○委員長（平野隆雄）

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

村田企画課長。

○企画課長（村田洋臣）

すみません、先ほど説明した資料の一部に誤字がございましたので、訂正をお願いしたいと思います。

6ページの1行目、⑤SDGz小文字のzになっておりますが、小文字のsが正しいので訂正くださるようお願いいたします。

○委員長（平野隆雄）

それでは、内容の説明が終わっております。

これより質疑を行います。

4番小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

5ページの下の方に高台に避難所とありますけど、町民の皆さんは、どこに高台があるというのはご存知なんでしょうか。

○委員長（平野隆雄）

住吉総務課長。

○総務課長（住吉英之）

今年の2月に防災マップの方を改訂してございまして、そこに高台の避難所を表示しておりますので、それを見ていただければ分かると思います。

○委員長（平野隆雄）

4番小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

私も含めて、避難所のやっつて町民の皆さんそんなに見ていないような気がするんですけど、いかがでしょうか。

○委員長（平野隆雄）

住吉総務課長。

○総務課長（住吉英之）

防災マップの方にはですね、まずは津波があった場合に高台に逃げる箇所がここですよというようなことで示してございまして、それをまとめて一覧にしてるものも載っていますし、各地区の会館だったり、避難所もその中にありますので、防災マップ見ていただければ分かるような恰好のものになっていますけれども、ちょっとその辺で改めてまた我々の方も、そういった町広報なりで防災マップのこういったところにこういう避難所があるので、日頃からそういったことを意識していただいて、何かあったら避難していただくというような形で広報の方もしていきたいと思っておりますし、避難路については看板も掲げてもございまして、そういったものをちょっと防災マップ見ながら意識していただければなという風に思います。

○委員長（平野隆雄）

ほかに質疑ございますか。

5番平沼委員。

○委員（平沼昌平）

4ページの一番下の方に、屋外展示物の「くろしお号」と書いてありますが、これは寄贈いただいた北大の水産学部と協議のうえと書いています。すでに寄贈いただいたものを、改めて協議して、今後の展示についてとありますけども、これは文章的には破棄するという風な捉え方の文章にも見れるんですけども、どういう考え方ですか。

○委員長（平野隆雄）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

トンネル記念館の「くろしお号」については、以前もこの議場でも申し上げたんですけど、改修・修繕するということになると、概算で1千万くらいの費用が掛かりますという部分をいただいております。

そのため、寄贈いただいた我々福島町としては、なかなかそこに一般財源として1千万捻出できないだろうという部分で、実は処分の方に向けてまずは北大さんに相談、事務の方に伺ったんです。そしたら、やはり思いある学部の先生達もいるので、ちょっと改めてまた再協議する場を設けるといって今なっております。それで、時期を見て担当課産業課と町長とで一度北大さんに行って協議してくるという分が今の流れとなっております。

○委員長（平野隆雄）

ほかに質疑ございますか。

3番佐藤委員。

○委員（佐藤孝男）

トンネル記念館について。外に展示しているトンネル関係のものなんだけど、これは破棄するものとか、そういうものは既に決まっているのかどうか、それをお知らせください。

○委員長（平野隆雄）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

くろしお号の他にはトンネル工事で使われた、委員も見ると思うんですけどオレンジの機械が正面というか国道から見えてすぐと、郵便局とトンネル記念館の間に設置しています。

そういう部分で残せるものについては残す。あとは劣化して設置しても、何か安全面に心配があるという部分については当然対応していかなければならないということで、残す部分と残さないものという部分は色分けして考えて行くということになっています。

○委員長（平野隆雄）

ほかに質疑ございますか。

1 番藤山委員。

○委員（藤山大）

5 ページの日本海溝の部分で、追加された部分で夜間の懐中電灯、それとそのほかにクマ避けスプレーなどこういう風な文章は書いているのですが、以前にもちょっと僕言ったんですけど、SNSの発信、これ以外にもそうなんですけど違う意味でSNSの発信、YouTube等の、要は町民に対して幅広く伝えるため若い人も携帯電話持っているので、その辺の対応ってこの文章から全然出て来ていないですよ。以前にはSNSでの対応のことを質問したんですが反映されていないので、その辺の経緯というかいきさつを教えてくださいたいと思います。

○委員長（平野隆雄）

住吉総務課長。

○総務課長（住吉英之）

前回というか、そういったご指摘いただいて、私も有効な手段だなという風に思っていますので、そういった部分について、まだどういふものを活用するかというのが決まっていますので、今の段階では書き込めないかなという風に思っています。

ですから、来年の予算に向けて、どういったことができるかというような段階で今ごしていますので、今、総合計画の方には現段階では書き込めるような状況ではないのかなという風に思っています。

○委員長（平野隆雄）

ほかに質疑ございますか。

7 番熊野委員。

○委員（熊野茂夫）

4 ページになるんですけども、コミュニティ活動支援事業の目標値について。これは単純に1 団体の増加目標として目標数値を置き換えていますというんですけども、この数値の1 という風にして考えたところの根拠というのはいったいなんですか。

○委員長（平野隆雄）

村田企画課長。

○企画課長（村田洋臣）

コミュニティ活動停滞してきておりますので、1 件でも増やしていきたいという思いで、1 件増という形で設定しております。

○委員長（平野隆雄）

ほかに質疑ございますか。

ございませんか。

（「なし」という声あり）

○委員長（平野隆雄）

質疑なしと認め、質疑を終わります。

次に、説明員との意見交換を行います。

4 番小鹿委員。

○委員（小鹿昭義）

福島町は高齢者もかなり多くなっています。今、地震が来て、すぐに高い台に逃げろと言っても、ちょっと無理があると思うんですよね。それで、各地域で防災訓練も必要だと思うのですが、町が主導して防災訓練をした方がいいと思いますけど、どうでしょうか。

○委員長（平野隆雄）

住吉総務課長。

○総務課長（住吉英之）

毎年、町の方としましては、防災意識を高揚を図るために全町対象に全地域を対象に防災訓練をしております。今年につきましては、月崎第1と三岳2の方で自主的に町内会さんの方で防災訓練というようなことで我々もお手伝いをさせていただいたという実績がございますけども、各町内会に応じて、やはり町内会単位で人を集めて防災訓練できるところと、なかなかできないようなところもあるかと思っておりますので、今のところは自主的な訓練の部分のところ町の方でお手伝いをするというような方式というか、そういった要請があれば今お手伝いをしているような状況でございますので、今おっしゃられたような地域毎の防災訓練ができるのかどうかということになると、ちょっと今後検討をしていかなければならないのかなという風に思っておりますので、町内会さんの方の意向も確認しながら、そういった方式がいいのかどうかも含めて検討を進めていきたいなと思っておりますけれども、いずれにしても町内会さんの方のご意向があつてということもあるかと思っておりますので、その辺を確認しながら検討を進めていきたいと思っております。

○委員長（平野隆雄）

ほかに。

1番藤山委員。

○委員（藤山大）

先程のSNSの対応で、今回、第6次計のあれには乗せていかないという形は説明の中では分かるんですけど、これはSNSの対応、情報発信ですね。というのは、今回乗せないけども前向きな検討をしていくという考え方で捉えておいてよろしいのか、その辺だけもう一度お願いしたいと思います。

○委員長（平野隆雄）

住吉総務課長。

○総務課長（住吉英之）

どういった方式が有効であるのかどうかというようなところも含めて、私の気持ちとしては前向きに検討していきたいなという風には考えてございます。

○委員長（平野隆雄）

ほかに意見交換ございますか。

7番熊野委員。

○委員（熊野茂夫）

今の1団体の増ということなんですけども、思いは分かるんですよ。それで、各町内会等のそれぞれの実情が全部違いますので、これまでにやって来たような手法ではなかなか対応しきれなくなってしまうというのが各町内会の現状なんだろうと思います。

それで、その範囲とか量とかそういうものを、やはり縮小してでも実行できるいわゆる状態のものをもう少し工夫して話し合ってみたらどうなのかなという気がします。

私の町内会でも全町内会員に呼び掛けて、情報だったり色んな花壇のことだったりという色んなことでもってやるんですけども、その規模では「もう難しい」という言い方になってきています。

ただ、各町内会館があるので、その周りを一部だけでもその所に町内会として意識的に手を入れるとか、何か花壇だったら花壇のもので花を春から秋までやるとか、全町内会的にやっていくということは難しいんですけども、部分的に縮小した形でやろうと思えば、また可能性のあることっていうのがあるのかなと思います。ほかの企画の中でセットすると、呼びかけると来る事業もやはり、私の町内会の中では実際にやっていますのでね、ただ、高齢化していることによって、前みたいにして出て来てこれをやってという、いわゆる労働奉仕的な問題はなかなか難しいんですけども、だけでも全体で楽しむことも含めて集中してやると、そこのところは出て来てくれるとかということがありますので、その工夫はあるのかなと思います。

ます。

○委員長（平野隆雄）

村田企画課長。

○企画課長（村田洋臣）

ありがとうございます。

これまでも、町内会全域で花いっぱい運動というところまでは想定していなくて、そういう例えば会館の周りだとか、一定の区間の道路沿線とかというのでも対象にはしておりますが、それら再度、町内会の方にも町内会連合会の総会の際にでも、再度そういったものを対象になりますということで説明させていただきたいと考えております。

○委員長（平野隆雄）

7番熊野委員。

○委員（熊野茂夫）

それと、今のやつはその方向で少し工夫してみたいと思います。

次に青函トンネル記念館の関係です。前回、会議の時に質疑した時に、状況が私が知っている状況の中でずっと同じような状況だったなど。外の今先ほどからのやりとりの中で展示物等の外のものについては老朽化だったり様々なことがあるので、そこは検討しなければならないんだという風にして思いますが、本当の意味でのこの青函トンネル第2青函への町としてのこれから運動を盛り上げていったり、町外に発信する力だとすると、やはりトンネル記念館の中の問題もあるんだろうという風にして感じました。

それです、あの会議のあと改めてトンネル記念館の展示状況を1回入って見ました。そうすると、その時に約2名くらい他所からの方も居て、さまざまな経過だとか、それから出て、常に放映されていますよね、今までの状況を。あれも含めて、そこでも聞いていたような状況だったので、そのことをそのこととして大事なことだし、それを継続することなんだろうと思います。

ただ、これで30年開通して列車走らせてから35周年ですよ。そうすると、この記念館の活用が過去の青函トンネルを掘った時の状況の経過を展示しているだけでいいのかなと。第2青函への夢を語るのであれば、そうじゃないだろうと。で、35年間の間にトンネル掘削の工法自体が相当に進化しているはずなんです。ですから、期成会の方とも相談しながら、またJAPICの方の実際の工事の中身を確認しながら協力を得ながら、現在のトンネル工法自体も過去と比べてどうなっているのか、そんなことも含めて今ここの中には、いわゆるA4紙1枚ぐらいでそれぐらいのスペースで、そしてそれを説明、説明員が現実的に人を確定するということはなかなか難しいだろうけども、今現状のやれるところからやろうという思いで、そのパンフレットか何かそういうものを作ろうということだろうと思うんですけども、そのことも今私が言った今の現在のトンネル工法の状況も、いわゆる一般の人にでもわかるような形でもって、その取り組みが必要ではないのかなと。その発信することによって、やはり地元の機運、町民に対する意識醸成についても繋がっていくのかなと思うんですけども、その辺についてはどうですか。

○委員長（平野隆雄）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

青函トンネル記念館につきましてはご存知のとおり、北海道が当初建設をし、それを町の方に移管するような形で新しくリニューアルした経緯があります。今の青函トンネルはどちらかというと、第1第2でいくと、第1の歴史を刻むような展示・広報になっていますので、我々今、第2青函トンネルを熱望しているなかで、ようやくコロナが明けて運動が再開できるようになって、今、行政報告でも報告しましたとおり国なり北海道にも少しずつ動きを加速させていただいておりますので、私はその中で、多分今すぐ今の記念館をお金を掛けてまでやるよりは、まずは機運醸成に力を注いだ中で、その先として今の青函トンネル記念館をリニューアルする形がいいのではないかなと思って、歴史は歴史としてとってですね、それから我々が望む第2青函というのはこういうことを目指しているんだというものをやっていく必要があるんだと思います。

それには、ただ、やはり財源を単純に、今トンネル記念館は1万人ちょっとぐらいの入館者で推移していると思うんですけど、なかなかそういったなかで町民の理解も得なければなりませんので、そういった

なかで財源探しをするという形になりますと、なかなかこう一般財源をほぼほぼ投入する形になるんだと思っていますので、我々としては出来れば将来のその第2青函を要望していくなかで今仲間を増やしているわけですね。青森も含めてですね。そういった中で当然、第1青函を掘った大手の企業さんが相当数いらっしゃいますので、そういった方々が今維持補修の関係で毎年交代・交代で入ってきているので、我々としてはそういった方々の思いも利用しながら、例えばクラウドファンディングもいいですからそういったものの資金集めをしながら、少しそういった方向性を見つけていくのも1つの手ではないのかなと思っていますので、今たまたま北大のあれでちょっと議論になっていますけども、将来的には少し長い目で私は方向性を見定めて、その中できちっと整理するべきではないのかなと思っていますし、そこに少し大きな予算をいただく時期が来るのではないのかなと思っていますので、その経緯も含めて、ちょっと時間をいただきながら、我々としてもやっていきたいと思っておりますので、ただ、今急いでいるのは、大分「くろしお号」が傷んでいるということで、やはり北大の先生方の思いもありますのでね、そういったのも含めて、それだってそういった財源探しというのはやはり先程言いましたとおり、そういう人達の思いから寄附なり募金を募るといった方法もありますのでね、色んな工夫をしながら、なるべく町民の理解を得られるような方向性を見出しながら計画登載できればなという風に思っているところです。

○委員長（平野隆雄）

7番熊野委員。

○委員（熊野茂夫）

その通りだろうとは思いますが。ただ、町長以下ですね一生懸命、我々もそうなんですが、道議だったり知事だったり、国会へのいわゆる陳情活動を続けていくという風なことその辺での活動は活動としてあるかと思っておりますけども、地元の町民も含め、また、興味を持ってトンネル記念館を訪れてくれるいわゆる観光客であろうと、それに関する興味のあることに特化して来る人であろうと、その人方のやはり意識が盛り上がり繋がっていくことによるものが、町長以下やはり活動続けてうえでの後押しにもなるんだろうなということを思いますので、是非その辺のことを一回きれいに精査しながら、課長、入口のところでこのところはそのスタートでいいと思っておりますので、やれることから順次続けて行ってほしいなと思っております。よろしくお願ひします。

○委員長（平野隆雄）

ほかに意見交換ございますか。

5番平沼委員。

○委員（平沼昌平）

今の熊野委員に対しての町長の答弁が大体「くろしお号」に対しての考えと受け止めました。

ただ、くろしお号どの程度分かっている内容というか今までの歴史ではなくて、そのもの物体に対してどの程度いま例えば課長が分かって、どの程度直すのかということに対して軽く1千万と言いましたけども、直す内容的なもの、これもやはり北大の方に提示していかなければならないと思うんですよ。もし、かなり強い思いがあるんですよ。あのくろしお号には、今の青函トンネル作るにあたっての。ですから、今、課長あれ何トンあるんですか。中はどうなっているのですか。計器はそのままですか。

町としてはそういう詳細なところを調べていますか。貰ったままそのままボンと置いて、ある程度錆びた状態で、気が向いた時にペンキ塗った、それが今の状態なんですよ。寄贈したのに対して、町として、そのいただいた方に対しての思い入れというのが私は今まではなかったような気がするんです。

そうであれば、それでただ業者に見せて完全に1千万掛かる。それも何の根拠で1千万なのか考えて、教えていただいたんでしょけども外観だけ直すにしてもその程度掛かるのかということなんですよ。船体の中は直す必要ないわけですから。当然、町としてもその船体の中がどうなっているか理解していないわけですから、だから何が根拠でそういう風な見積もりが出てくるのか。もし直すとするなら先ほど町長言ったように様々な面で保存するとした場合ですよ。これ寄贈した人も「いや、もうあれはいらないわ」って言うのであれば町と考えが一致するわけですから、それは当時トンネル関係に関連した人達の思いは捨てるを得ないでしょうけども、今の質問した段階で、そのくろしお号の何がどうして1千万掛かるのか。そのくろしお号に対してどのぐらいの情報を持っているのか。まず、そこら辺をお聞かせ願ひたいと思っております。

○委員長（平野隆雄）

福原産業課長。

○産業課長（福原貴之）

くろしお号については見てのとおり、船体自体がクラック入っているという部分、それと中は空洞になっています。上の方から蓋がありまして、中に入ることもできます空洞になっていますので。その中の部分も相当錆び付いて老朽化しているという部分で、修繕1千万掛かるという部分は本当に概算、地元の鉄工所さんに見積もってもらってもなかなか専門業者じゃないのでできないという部分で、ある程度函館の業者さんを通して、この外側のクラックの状況と中の空洞、錆の状況を含めて相談したところ、しっかり見るためにはそれなりの見積もりの経費も掛かるという部分で、現段階ではおおよそでいいのでというお願いで1千万円という数字を導きだしています。

それで本当に1千万なのかという部分は、私の方も検証しているものではございませんので、方向性このくろしおを何としても復活させるというか展示していくんだという部分になるのであれば、それなりの予算を掛けていかなければならないとは思いますが、その部分については財源の調整とかもあるのが現段階では北大さんとの調整をしてからという部分で認識しております。

あとはペンキ塗りの方も我々も気づいた時にはペンキを塗るという部分、わざわざトンネル記念館くろしお号とかを見に来てくれる方々もいるもんですから、あまり汚い状況にはしておけないという部分でペンキ塗りの方も時を見てやらせていただいております。思い入れがないというわけでもないですけど、一応あそこのくろしお号ある所の前の花壇とかも毎年整備とかさせてもらっていますし、その時にでも船体とかも見ることをしていますので、思い入れがないという状況ではございません。

○委員長（平野隆雄）

5番平沼委員。

○委員（平沼昌平）

思い入れがないというのは言い過ぎかもしれませんが、そのくろしお号だけに特化して考えれば、もう少し簡単に1千万という言葉は私はなかなか言えないと思いますよ。よくも調べないで1千万というのはですから。ですから、先ほど町長の回答にもありましたように、今後の、もう完全に破棄するという風に決まったわけではないわけでしょう。そうであれば、もう少し寄贈された側と寄贈してくれた側と、それからその周辺のその関連した方々の思いも受け止めて、もうちょっと協議してもいいのかなどこのように思っております。ですから、継続的にこの第6次で検討していただきたいなと思います。

これはそれはそれで今あれなんですけども、町長も資金のものについては回答されていますからいいですけども、この第2青函トンネル構想に向けて、ちょっとお聞きします。

担当課がそれぞれ連携してやると言うんですけども、その今我が福島町は他町も含めて、少し単独の町だったものが北海道、北海道からその海を渡って青森県という風に第2青函トンネル構想というものに対して意見を統一しながら大きい流れを作ろうとしております。

肝心要の福島町、担当課だけではなくて、やはり全課挙げてそれぞれの目標値みたいなものをきちっと決めてはどうなのかなと思うんです。例えば、その教育関係、保育所関係、さまざまな課を全部で、気狂った様に第2青函トンネルの構想というものを福島の町民は口開けば第2青函トンネルの話ししかしないぐらいの意識レベルまで持っていくという感覚は私は必要ではないかと思うんですけども、町長はどうお考えですか。

○委員長（平野隆雄）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

全職員がそこまでいけるかどうかというのは、ちょっとまた厳しいものがありますけども、ただやはり議員おっしゃるとおり、やはり我々が色んなところに要望に行っても、やはり地元の熱意がどのぐらいあるんだということの熱量の問題だと思うんですね。やはり職員はもとより町民自体がしっかりと第2青函を熱望するという思いを共有していかなければ、なかなか地方には届いていかないのかなと思いますので、色んな形で我々としてはこれからようやく今、先ほど申しましたとおり比較的オープンで動けるようになりました。この3年間は本当に言いたくてもなかなか言えない状態でありましたのでね、そういったものも含めて、これからは少し色々国なり国会議員先生も含めて、そういった声を届けるにあたっては町民の意識向上なりそういった意識共有みたいなのをどういった形でやるかということ、もう一度再構築してい

く必要があるんだと思いますので、そこは第2青函トンネルを実現する会の中でもまた議論をしていって、そういった方々の協力を得ながらまずはしっかり町民が本当に必要だねというものを、どこ行っても口を開けるような形、私等はどこ行っても第2青函って声をやっていますけども、少しずつ今そういった形が出来て来て、広報なんかでも私もそういった要望活動の報告もさせていただいておりますので、そういったものを少しずつ広報なり色んな機会を通じながらやっていきたいと思いますので、今般は今町政懇談会の中でも色々とそういった声も聞こえてくるんだと思いますので、そういったところの機会を通じながらしっかり町としての思い、そして今現在進行形の形を町民に理解をさせていただいて、本当に何時も私は要望会に行った時にはやはりトンネルを掘った人達がまだ今現役で働いていて、その人達が常に青函トンネルを新幹線が最高スピードで走ることを夢見て今でも頑張っているんだということをよくお話しをさせていただいておりますので、そういった思いをしっかり町民全体が共有して、そして、まずはこの渡島西部四町、意識が今統一されつつありますし、渡島全体も期成会の中では第2青函というのはある程度認知されてきていますので、それで桧山の方も上ノ国町長が会長でありますけども、そここのことについても全く異論はないと言いますか、お話しすれば協力するよという話もしてくれていますので、だいぶ渡島半島全体としては、函館も大泉さんが今、新幹線を函館までという声も出していますので、そういった意味で色んな形で少しずつ整えつつあるのかなと思っています。

あとは、ただやはり実現に向けては、やはり財源的なものが相当ネックになると言いますか、7千億ぐらい掛かりますし、今の札幌延伸だけでも今事業費が膨らんでいますので、やはり少し国の方の先生方のところに行きますと、やはり財務省が少しそういったものに対して過敏になっているということ、国道交通省については当然事業主体側になりますので、我々と同じような考えを持ってやってくれているんだと思いますので、そういったものもしっかりと捉まえながら、まずは議員おっしゃるとおり町民なり職員がしっかりそういう情報発信できるような体制を、今後また少し検討させていただきたいなという風に思っております。

○委員長（平野隆雄）

5番平沼委員。

○委員（平沼昌平）

我が町は今世紀はじめての海底トンネルを実現に向けて活動した町でもありますし、深山町長が本当に死に物狂いでこの工事を実現させたとは私は思っております。それが、今の福島町のトンネル関係従事者を多く輩出して、今ではどこのトンネルに行っても福島町の人先頭を切って作業にあたっているという様な状況も作りだしたと。そういうことを考えれば、今の町長に対して、深山町長と同じことをしてもいいわけなんですけれども、更に進化したなかで活動をして行ってもらいたいなとこのように思うんです。ですから、全町全課挙げて本当に口を開けば第2青函トンネルと言われるぐらい、そういう意識を高めていくことが私は必要じゃないのかなと思うんです。

そのための原点である青函トンネルの貴重な資料関係は、十分今後も検討していかなければならないということで終わりたいと思います。

○委員長（平野隆雄）

鳴海町長。

○町長（鳴海清春）

深山町長は私役場職員になった時の町長でありますし、その当時からもトンネル町長という名で全国全道に知れ渡っていたのかなという思いがあります。

町長は本当に長年青函トンネルに対する思いが強いなかで、多分、福島町の昭和の時代のまちづくりを青函トンネルを基にして築き上げたのかなと礎を作ってくれたのではないのかなという風に私も長年横にいて感じているところでありますので、我々は足元にもまだ及びませんが、第2青函トンネル町長と言われるように私もしっかり頑張っていきたいなという風に思っていますし、今、議員おっしゃるとおり青函トンネル記念館は多分皆さんの思いが工事に携わった方々の思い入れが入った記念館でありますので、そここのところはしっかりその思いに応えるような形で、失礼のないような形で我々としてもしっかり整備・保管をして、後世にまた残していく財産ではないのかなと思っていますので、くろしお号についてもしっかり北大の先生方の思いをくみ取ってやる形が一番理想だという風に思っていますので、そこは強い今日色んな、私ちょっと前回不在でしたけど、大分読まさせていただいたら思いが皆さんの思いもあります

ので、そういったものにしっかり応えるようにやっていきたいなと思っています。

○**委員長（平野隆雄）**

ほかに意見交換ございますか。

ありませんか。

（「なし」という声あり）

○**委員長（平野隆雄）**

以上で、説明員との意見交換を終わります。

暫時休憩いたします。

（休憩 13時26分）

（再開 13時26分）

○**委員長（平野隆雄）**

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

説明員の方は退席を願います。

ご苦労さまでした。

暫時休憩いたします。

（休憩 13時26分）

（再開 13時32分）

○**委員長（平野隆雄）**

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

それでは、休憩中の「論点・争点の整理」を基に、問題点やその対策などについて討議・意見交換を行いましたということによろしいですか。

（「はい」という声あり）

○**委員長（平野隆雄）**

お諮りいたします。

本委員会意見の取りまとめ及びその調整については、委員長に一任願いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○**委員長（平野隆雄）**

ご異議なしと認め、本委員会意見の取りまとめ及びその調整は、委員長に一任されました。

暫時休憩いたします。

（休憩 13時33分）

（再開 13時34分）

○**委員長（平野隆雄）**

休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

お諮りいたします。

以上で、本委員会に付託されました「第6次福島町総合計画策定に関する調査について」を終了したいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」という声あり）

○**委員長（平野隆雄）**

ご異議なしと認め、本委員会に付託されました「第6次福島町総合計画策定に関する調査について」は終了いたします。

次に、2のその他について、何かございませんか。

(「なし」という声あり)

○**委員長(平野隆雄)**

ないようですので、以上で、本日の案件を全て終了いたしました。

これをもちまして第6次福島町総合計画策定調査特別委員会を閉会いたします。

長期間にわたるご審議、大変ご苦勞さまでした。

(閉会 13時34分)

福島町議会会議条例第157条の規定により署名する。

第6次福島町総合計画策定調査
特別委員会委員長

平野隆雄